

## 北山忍教授 APA Distinguished Scientific Contributions Award 受賞記念講演

北山忍教授は、京都大学とミシガン大学で長年文化心理学の研究を牽引し、心理学の諸分野の発展に寄与されてきています。この功績から、アメリカ心理学会（APA）の最も栄誉ある Distinguished Scientific Contributions Award を今年受賞されます。そこで今回、受賞記念講演を企画いたしました。

本講演では、北山教授が共同研究者と近年執り行っている南米・中東・南アジアなど、非西洋と括られることの多かった地域の文化的多様性を、心理学の実証的データをもとに明らかにし、社会・行動科学をよりグローバルな学問にするためのご提言をいただけたらと思っております。講演の最後には、心理学における文化研究の今後の広がりや展開について、パネル参加者として石井敬子（名古屋大学）・内田由紀子（京都大学）・増田貴彦（アルバータ大学）・宮本百合（一橋大学）との質疑応答を予定しております。

講演日時：7月11日（月）16:00～17:45

講演形式：オンライン開催（Zoom）

講演表題：協調的自己の多様性と近代西洋の起源：グローバル心理学への提言

講演概要：

心理学の理論が欧米の社会や文化の習慣や常識に大きく連動していることは、過去30年にわたり、洋の東西、特に北アメリカと東アジアの比較を通じて多くの心理学の研究者が示してきた点である。この論点は、近年、心理学を超え、社会・行動科学の諸領域で広く認知されてきている。近代西洋（“The West”）は、独立した個人の概念を基軸にしている点で特異である。これに対して、西洋以外の文化（“The Rest”）は、より協調的・関係志向的な人の概念を基軸にしている。しかし、東アジアの協調性のスタイルとその背後にある協調的自己観をもって“The Rest”を理解したとするのは、“The West”から人一般についての結論を導くと同様、早計であろう。本講演では、過去1万年の間にユーラシア大陸の諸地域とその周辺に登場した4つの非西洋文化圏（東アジア・ラテン・南アジア・アラブ）に注目し、そのそれぞれに特有な協調性のスタイルを同定する。さらに、これら多様な協調性のスタイルの背後にある社会・生態的条件を検討し、これらの非西洋文化圏が、過去千年余にわたって出現した近代西洋の誕生と展開にいかに関わったのかを考察し、心理学の理論の文化相対性とそれを克服する手立てとしてのグローバル心理学の重要性を考える。

この講演は、オンラインの Zoom ウェビナーで開催されます。参加に際しては、以下のリンクより事前登録をお願いします。

---

開催時刻：2022年7月11日 04:00 PM 大阪、札幌、東京

トピック：北山忍教授 APA Distinguished Scientific Contributions Award 受賞記念  
講演会

このウェビナーに事前登録する：

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_Gx-HqAyZRM-v-mn3XBo4ww](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_Gx-HqAyZRM-v-mn3XBo4ww)

ご登録後、ウェビナー参加に関する確認メールが届きます。

---

主催：一橋大学大学院経営管理研究科国際企業戦略専攻／大学院社会学研究科・京都大学  
人と社会の未来研究院